

## 読み聞かせ講座 小さい子向け 読みなおすベーシック絵本 子ども読書活動交流集会（実技編）

講師：坂本由紀子（児童図書館研究会  
会員 元公共図書館司書）

午前中の工藤直子さんの講演で「5歳児に（子どもの気持ちに）なってみる」「どのように言葉を獲得するのか観察を！」というお話があった。これらは読み聞かせをする上で大切なこと。『石井桃子集7』には、本との出会いについて「2歳くらいかと考えていた。けれども（中略）もっとずっと早くから本が入ってくる場合もある」という記述がある。こんなことわかるのかな？と思っても、かなり早くから絵を読み、言葉を受け取るようになる。子どもの発育を観察しながら、それに応じた段階的な読み聞かせをしてあげたい。



### 〇はじめに

幼児期の読書において、大人がどのように本を手渡すかは重要なウエートを占める。ベーシック絵本を掘り下げるだけでは、この時期の読書を語ることはできないので、渡し方にも重点をおいてお話ししたい。

魅力的なベーシック絵本は幅広い層に支持される。小さい子向けとは何歳くらいを指すのか？対象年齢を限定するのは難しいが、本講座では、物語を楽しむ力がつく前まで＝特に乳幼児～幼稚園年中を対象と考える。

### 〇ベーシック絵本を見直す

あふれる新刊の中であって、今では話題にもならないし、目立つ場所に置かれてもいないけれど、ベーシック絵本には、親しまれ続けている理由がある。ベーシックとは古い本という意味ではない。いつ読んでも色あせないもの、古臭くないもの。例えば、おいしそうなカステラの匂いが思い起こされる『ぐりとぐら』。そこには、平等性、工程の楽しさ、期待感など普遍的な要素が隠れている。

こういった基本的な質をもった本をたくさん知ること、新刊書を評価する力もつく。ベーシック絵本の蓄積が多ければ、同じ題材の本を、言葉づかいや展開で比較、「あれと比べるとどうかな？」と判断できる。例えば、リアルな乗り物が次々に登場する『ひこうじょうのじどうしゃ』。これとマンガチックな車の絵本を比較してみる。どう感じるか？

### 〇絵本以前に大切なことがある

本との出会いの時期に、本に望むことは、リズム、美しい言葉・絵・色、リアルな絵などの要素。周りの大人に望むことは、1対1の関係、信頼関係、だっこ、くつろぎ、くり返し（子どもの要求につき合う）など。

また、子どもとの対話も大事。例えば、子どもが絵を見て「イチゴ！」と言ったら、「イチゴだね。おいしそうだね」と返してあげる。この時期の子どもの反応は大切にしたい。それを無視してまで、テキストに厳格でなくてよいと思う。呼び掛けに答えてくれる絵本、大人との対話式の読み聞かせは「世界は自分を受け入れてくれる」という感覚を生み、幸福で豊かな人生のスタートにつながるはず。

良書であれば、それだけでよいのではない。本と出会う1～3歳時、読んでもらう心地よさ・幸福感を与える大人の存在は大きい。1対1の読書体験なしに、いきなりおはなし会（1対多）への参加は疑問である。

## ○幼児絵本について

乳幼児向けの絵本には、「音・リズム」「食べ物」「動物」「生活」の本が多い。これらは脈絡、ストーリー性がないため、どの頁からも入れるし、お気に入りの頁に飛んだり、同じ頁をリピートできる良さがある。平山和子著『くだもの』は全編「さあどうぞ」というフレーズのくり返しだが、無駄のない言葉・リアルな絵に子どもは反応する。最後だけ「かわむけるかな？」と一歩進んだ展開をみせるのもよい。

小さい子には可愛いものがよいという先入観があるが、リアルな絵は体験的、視覚的な面から重要。小さい子は、本の中の絵を絵空事とっていない＝体験している（おいしそうな絵に口を動かす、犬の絵を怖がる等）。デフォルメならば、ブルーナや『でてこいでてこい』など物の形、特徴をしっかりと描写したものがよい。また『もりのなか』のように白黒でコントラストがはっきりしたのもよい。ふわふわ、ぼんやりは視覚が定まっていない時期には好ましくない。

言葉が飛躍的に発達する3歳前後は、お話がどんどん楽しめる次のステップへ移る前の大切な時期である。この時期には、ふくらんで、すっと落ちる単純なストーリーと、美しい言葉を与えたい。

## ○よい物語絵本とは？

よい絵本は絵が語りかけ、簡潔な文が支える。(例:『どろんこハリー』『三びきのやぎのらがらどん』『てぶくろ』)。また、よい本は潜在的な欲求を満たす。『かしこいビル』は置いてきぼりにされた人形が、持ち主を追いかける話。追いついた時の安堵感を子どもは追体験している。『だるまちゃんとてんぐちゃん』は友だちと何でも同じにしたい心理をよく描いている他、友だちを尊重する姿勢、大人が素直に謝るシーン、ハッピーエンドなど、子どもが望む要素がたくさんつまっている。

## ○実践例

♪ ととけっこう ♪ ぼうずぼうず  
絵本『ちいさなねこ』

- ・てあそび、わらべうたの利用  
集中、リラックス、関係づくりに有効  
♪おちゃをのみにきてください  
♪もちっこやいて
- ・絵本選び  
表示されている対象年齢は目安。シチュエーション(1対1、1対多)に左右される。
- ・聞く側を体験する大人の方へ  
大人は字面を追ってしまう、耳に入ることばと絵だけに集中を！(=子どもの感覚)

## ○トムの会(久喜)によるおはなし会



詩『じゃんけんぼん(工藤直子作)』

♪ いもにんじんさんしょ

おはなし『ひなどりとねこ』

絵本『もりのなか』

絵本『お月さまこんばんは』

♪ 十五夜お月さん

♪ さよならあんころもち

## ○最後に…

絵本は、音もなく、動きもせずに、ただ静かにそこにある。大人が読むことによって立体化される。絵本を手渡すことは「芸」ではない。どんどん読んであげてほしい。

### 【参考図書】

『幼い子の文学』瀬田貞二著 中央公論社  
『読む力は生きる力』脇明子著 岩波書店  
『赤ちゃんの本棚 0～6歳まで』のら書房